

會田英蘭 あづが 漢詩人、南畫家。明治十二年九月二日東京淺草生れ、昭和二十一年九月二十一日歿（一八〇—一九五五）。舊姓三浦、本名久子。

別號小果、永蘭、翠霞。初め文氣派の佐竹永湖の學ぶと、のち南畫に轉じて兒玉果亭の門に入る。また金井之恭かねいのみやすの書を學んだ。明治四十一年法學者會田範治と結婚。三浦姓の時代から畫人として名があつたが、

漢詩では隨鷗吟社に入り、岩溪叢川、土居香國、結城蕃堂等と師事、

次で國分青崖に就き、詩會淡社、藍社を興した。戦後土屋竹雨を盟

主として藍社を再興するなど、江木欣々あこ（後の昭和漢詩壇中、當に

紅一點の趣きがあつた。

漢詩集『英蘭初稿』（昭和九年刊）、遺歌集『英蘭餘影』（昭和二十

二年三月二十一日會田範治編輯）、『英蘭遺稿』附録共全四冊（昭和

二十二年七月一日會田範治編輯）の他、會田範治著『英蘭詩史』（昭

和四十一年十一月二十日三喜堂印刷所）がある。

